

特集

戦後50年

満州にて

宮園町3丁目 向井文子さん



向井文子さん
 大正12年、岐阜県可児郡御嵩町伏見生まれ。
 昭和13年 岐阜市立看護婦助産婦学校入学
 昭和15年 看護婦資格取得
 昭和16年 産婆資格取得
 昭和17年 保健婦資格取得
 昭和19年 満州に渡る
 帰国
 昭和63年 留萌市立病院に助産婦として勤務
 まで

満州奉天へ

昭和19年5月に満州奉天市へ。満州へ行く事となった理由は、姉がお産をするため、母の代わりにということ、私が助産婦だったので母も安心して行かせたと思います。

姉の夫は、奉天神社の神主でした。長女のお産は1月頃で、自宅分娩をさせ、私は、そのまま、奉天市紅梅町の牧産婦人科病院に就職しましたが、奉天では大きい専門病院で3階建、50室ぐらいはあったでしょうか、当直をしていると、1日3〜4人は産まれていました。

まさか終戦になり、混沌とした状況になるとは想像もしていませんでした。終戦を知ったのは、往診に出かけている時、ラジオで天皇陛下の言葉が聞

こえてきた時です。

終戦のあと

帰ろうと、外に出たら、中国人の暴動があつて、鉄砲をさかんに撃っていました。ヤンチョーの兄さんに何とか頼んで病院へ帰りました。終戦になって中国人や、ロシア人が病院の中に入ってきたり、時には、ちょうど赤ん坊を取りあげたばかりで、両手にもう一度、血をぬり、手を離せない、何もできないと両手をあげて見せた事もあります。物を取りにも来ましたが、お金を渡すと帰る事もありましたが、病院内を探す事もたびたびでした。

もの何とかなりました。患者さんは日本・中国・朝鮮人で、お金は支払われていましたので、給料はいただくことができ助かりましたが、貯金していたお金は終戦とともに、何もなくなっていました。牧病院には、本土決戦要員として転属中、終戦のため、奉天駅で解散となった20人ぐらいの将校・下士官が宿泊することになりました。

1チヨで迎えにきましたが、そのまま、ロシア人なら致され、連れていかれてしまいました。もう一人の先生がいましたので診療はできましたが、町中では、日本人を殺して、引っぱって歩いていたりして、おそれ、恐怖感にぐええませんでした。その中で、病院にいた7、8人の看護婦の内、2人が結核で亡くなりました。でも墓地には行かれず、公園に埋めることしかできない状況でした。

助産婦として

そのような時にも助産婦の仕事は何かやっていました。早目に引揚げた看護婦さんもおりました。中国人にひどいイタズラをされて血だらけになって運ばれた女性もいま



た。

満洲国境の奥地から引き揚げてくるお腹の大きい人や、産まれそうな人も病院に入ってきました。

その人がたを、一日一人で16人とりあげたこともありましたが、引き揚げ者の中には、途中で生まれたり何もしずかえつてつらい思いをさせると言い、何とかして下さいと、先生に頼んでいる方もおりました。出血してきた方の子どもは亡くなったり、おろす事を頼む方もおられました。ひどい混乱だったのです。先生も苦しんだと思います。

姉が20年12月に2人目を生みました。が、この頃もひどい状況で、ロシア人が病室に入ってくるので、気をゆるせませんでした。

姉も産んだ子が無事に育ってくれるだろうかと、淋しい思いをした事もあります。我が子を中国人に売るといふ場面も見ました。病院で子どもを産み、連れて帰っても、親と子どもを離れ、どうなるかわからず、ミルクも乳もない状況です。死ぬという事しか考えられない方々は多かったと思います。

んに迷惑がかかると考えた方、奉天まで来たが、産まれたばかりの赤ん坊を何とかしてくれと頼む方、赤ん坊は零下30℃の部屋で、一生懸命生きようとしていました。

妊娠3カ月、5カ月、6カ月の子をおろしてほしいと頼む方、引き揚げ船で命をおとした子どももいたようです。戦争で人生の半分は終わったような気がします。戦争はもう決してしてもらいたくないとつくづく感じました。

戦後50年特集をして……

9月に戦後50年の広島を掲載し、10月から3回、特集として広報紙に載せました。12月で戦後50年目と言う年は終りますが、体験した方々の戦後は、まだまだ終わっていない訳ではなく、心と体に強く焼きつけられていることが、今回の取材で感じました。次の世代に何を残していくのか、まだ続いている戦後をどう考えていくのか、生きる事、生かされている事の大切さを考えさせ

られたような気がします。戦後50年の特集は今月で終らせていただきますが、戦争を知らない世代の方々に、戦争というものの悲惨さを少しでも伝えることができたらと思っています。戦争への考え方も人それぞれ違いますが、命と引きかえに何を求めようとしたのか平和というものの意味を、今一度考えてみたいと思います。



お詫びとお礼

10月号戦後50年で掲載いたしました、木下久子さん「終戦の中国で“戦争は弱い者に波寄せる”」中、「商工会館」とあるのは「将校会館」。「香彷彿」とあるのは「香坊」。「夫との再開」は「夫との再会」と訂正し、お詫びいたします。

今回、取材をお受けいただきました「木下久子さん“終戦の中国で”戦争は弱い者に波寄せる。」「武田四郎さん“シベリア抑留”」「向井文子さん“満州にて”」にはつきまして、御協力をいただき厚くお礼申し上げます。